

実施報告

第 14 回

全国少林寺拳法 指導者研修会

令和 8 年 9 月 19 日（土）～20（日）
日本武道館研修センター（千葉・勝浦）

全国から少林寺拳法修業者のほか未経験の教員など 37 名の参加者が集まり、多角的な視点からの研修を通じて、指導者としての資質・少林寺拳法技能の向上を図りました。

（なお、台風 25 号の影響により日程を 2 日間に短縮して実施いたしました）



【研修内容】◇講義

中学校武道（少林寺拳法）授業で伝えたいこと ～ガイダンス～
アタッチメントスタイルの理解と指導・支援の在り方①②

◇実技

少林寺拳法の基本 ※

◇講義・実技

少林寺拳法授業の実践について

子どもの理解から始まる授業づくり

①多様性に対応する支援のヒント

②多様性に対応する支援のヒント ビジントレーニングの観点から

ワクワクする授業づくりのヒント ※

◇実習

授業づくり（グループ活動）～生徒が楽しく学べる授業～ ※

演武組成・発表 ※

◇討議

研修会のミッション、支援体制の強化について、振り返り、質疑応答

※…台風による日程短縮のため実施せず

【講 師】

中島 正樹 中学校武道授業推進委員会委員長、全国中学校少林寺拳法連盟副会長、富士見丘中学校・高等学校教諭
小井 寿史 中学校武道授業推進委員会委員、岡山県公立校元校長、笠岡市立金浦中学校主幹教諭
桑島 亜紀 中学校武道授業推進委員会委員、長野県松本支援学校教頭
中村 優一 中学校武道授業推進委員会委員、江戸川区立小岩第三中学校主幹教諭
奥 超雄 小平市スポーツ少年団、立川市立立川第五中学校教諭
本島 卯季 長野県教育委員会中信教育事務所指導主事

【助 講 師】

村瀬 晃啓 少林寺拳法連盟東京本部本部長、本郷学園支部長
山西 政宗 少林寺拳法連盟振興普及部課長、本部審判委員会委員、タドスポーツ少年団支部長

参加者の 感想（抜粋）



講義は意見交換を交えながら展開



少林寺拳法授業の導入としての動きづくり



実践例を通じて授業での指導法を学ぶ



ビジョントレーニングという角度からの内容も

「少林寺拳法の授業をする可能性があるため参加しました。少林寺拳法の教えが素晴らしく指導したいと思っていましたが、武道の定義、理念、憲章を読み、武道全体にもこのような意義があることを知りました。中学生は武道を授業で学ぶ理由については全く知らない状態です。少林寺拳法の教えはもちろんのこと、武道の意義を理解できるような指導に繋がっていきたいと感じました」

「指導のあり方を深く考える大変有意義な時間となりました。『少林寺拳法で何を伝えたいか』という根幹のテーマから始まり、昔と今の子供たちの違いについて意見を交わす中で、現代に応じた指導のあり方を再考する良い契機となりました。グループワークでは全国の指導者から多種多様な考え方を学びつつ、根底にある共通の想いや理念を共有することができました。また、各地域での指導上の悩みや具体的な工夫を知ることができた点も大きな収穫です」

「マルトリートメント、アタッチメントスタイルを学ぶことで、今の自分自身の指導方法が正しいかを再確認することができました。さらに、インクルーシブな教育や、ビジョントレーニングの視点からは、子どもと接する上で支援の幅が広がりました」